

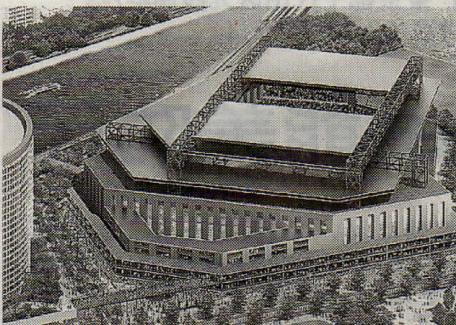
横浜ドーム構想再燃

経済界、中心部を活性化

横浜経済界の有志が横浜の臨海部2カ所を候補地として、ドーム球場を建設する構想をまとめた。2000年ごろに一度浮上した構想だが、今回は完成予想図まで作成、行政や建設費といった課題は多いが、横浜市中心部を活性化させる案として議論を呼びそうだ。

商業モールを併設

MM21案



MM21地区にドームを建設した場合の予想図

「横浜ドームを実現する会」（池田典義会長）によると、横浜ドームの詳細なCG（コンピューターグラフィックス）による完成予想図を載せたパンフレットを初めて作成した。同

会は2011年に約10年ぶりに再結成された任意団体で、300を超える

MM21側の場合は市有

地を活用、敷地面積が約6万平方メートル、延べ床面積は17万平方メートルで、横浜赤レンガ倉庫をイメージさせるショッピングモールを併設する。



山下埠頭に隣接する山下公園を全面的に利用した計画案では、球場を中心にカジノを含めた統合型リゾート（IR）として開発する。敷地面積は約45万5000平方メートル、延べ床面積は約55万8500平方メートルを併設する。

国際会議やIR誘致は横浜市も力を入れている。実現する会は市にも計画実現を求めるほか、近く横浜商工会議所と神奈川経済同友会、神奈川県経営者協会の経済3団体にも呼びかけて協議会に参加を求める。「東京五輪の開催される20年までには実現したい」（池田会長）という。

ただ、市内臨海部では613億円の事業費かかる新市庁舎の建設が控える。国内のドーム球場では500億円前後の建設費がかかっているとい

う。建設資材や人件費の高騰が問題となるなかで、実現可能性を疑問視する声もある。また横浜スタジアムの運営会社や

それが横浜の危機感を共有することにもつながる」と狙いを話している。

山下埠頭案

カジノ含むリゾート

山下埠頭にドーム（中央）を建設した場合の予想図

横浜DeNAベイスターズ